

平成 27 年度障害者就業・生活支援センター ティーダ&チムチム実績報告

【総括】

① 障害者就業・生活支援センター事業

今年度は、ハローワークとチーム支援強化を図った。また特別支援学校の登録を 12 月から夏休み期間中へ変更し、早期からの情報共有を行いインターンシップや職場体験実習支援を行う等、実習件数の大幅な伸びにつながった。

平成 28 年 4 月から納付金の適応範囲が広がり、企業からの相談はあるものの、紹介出来る方が少なく、業務調整や業務提案を行いミスマッチに繋がらないように支援を行った。

② 登録者・企業支援

登録者、企業双方のアセスメントを行い、ミスマッチに繋がらないような支援を行う事と就業面と生活面の一体的な支援がより重用になっており、支援ワーカー一人の担当利用者も増加し、関係機関との連携も広がる中で優先順位をつけ、支援スキルアップも行い目の前の課題解決に取り組んだ。

障がいの特性をどのように理解してもらい誤解する事に繋がらないようにワーカー一人ひとりが意識して現場支援を行う事を心がけた。

③ 関係機関連携と地域貢献

昨年度に引き続き名桜大学カウンセリング室へ 1 日出勤し、発達障がい者の就労支援やメンタル面の相談者を行い、医療機関へ繋ぐ等連携を図った。北部圏域自立支援協議会や沖縄県自立支援協議会の就労部会の構成員を務め、今後北部の課題を県へあげ、地域の課題解決を図った。また沖縄県より「沖縄県職業能力開発校基本計画」策定委員並びに「沖縄県発達障害者支援体制整備委員会」の委員の依頼があり計画策定に携わった。

4 年ぶりに NPO 法人ジョブコーチネットワーク地方基礎セミナーを開催し、300 名の関係者が参加し就労支援のスキルアップを行い県内全体の就労支援の底上げにつながったと思う。

④ 今後の取組

平成 28 年度より「差別解消法」の施行に伴い、企業はどのように取り組んだら良いのかと恐々としており、具体的な支援方法についても助言を行う必要性が重要になり、それが出来る為には、日々の支援のスキルアップに取り組むたい。

また「個人情報保護」の遵守や「就業生活支援センター」の評価基準も始まり、支援の中身は、数字では図れるものではないが、「支援の質」を絶えず意識しながら数字も伸ばせるように努力を行いたいと思う。

【関係資料】 状況報告（平成28年3月31日現在）

（1）登録状況（障がい別）

	身体	知的	精神	発達・高次脳 機能・難病	合計
在職中	39	88	60	15	202
求職中	60	69	94	14	237
その他	0	8	33	1	42
合計	99	165	187	30	481

（2）平成27年度新規求職者数（障がい別）

	身体	知的	精神	発達・高次脳 機能・難病	合計
職場実習	3	22	9	3	37

（3）職場実習あっせん件数（障がい別）

	身体	知的	精神	発達・高次脳 機能・難病	合計
職場実習	4	26	11	9	50

（4）就職件数（障がい別）

	身体	知的	精神	発達・高次脳 機能・難病	合計
職場実習	4	8	9	5	26

（5）支援件数（障がい別）

	身体	知的	精神	発達・高次脳 機能・難病	合計
支援件数	246	1,453	962	590	3,251